

1 次のお話を読みましょう。

七五三という行事は、男の子は三歳と五歳になった年、女の子は三歳と七歳になった年にお祝いする日本の行事です。昔は、医療が発展していなかったので、子どもが七歳まで生きることには大変でした。そのことから、七歳までの子どもは『神の子』として考えられていました。七歳になると、社会のイチインとして迎えられ、それが七五三のお伊ワイの始まりと言われています。明治時代になると現代の七五三に近い行事となっていきました。

このように節目の年れいでお祝いをする行事は他にもあります。二十歳のお祝いは成人式、六十歳では還暦、七十歳では古希というお祝いをします。百歳では百寿というお祝いをしますが、漢字の百から一を取ると白という漢字になるので九十九歳のお祝いは白寿と言います。

さて、日本は世界でも有数の長寿国です。長寿国というのは、寿命が長いということです。二〇二一年七月三十日に厚生労働省が発表した日本の平均寿命は、男性が八十二歳、女性が八十八歳です。最新の医療技術や医療サービスが充実していること、リョウコウな衛生管理が、日常的に行われていることも大きく影響しています。

世界に目を向けると、アフリカでは多くの国の平均寿命が五十歳代です。それは、衛生環境が十分に整備されていないことで病気にかかりやすいことや、貧困によって十分に栄養を取れないこと、医療サービスが不足している地域が多いことなどが要因です。

世界では、幸せに百歳を迎える人もいれば、生きたくても生きられずに苦しんでいる人達もいます。

